



からしだねの由来 マタイ 13章 31節、マルコ 4章 30節、ルカ 13章 18節

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会  
編集・広報委員会  
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3  
〒807-0025  
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354  
第421号

## トマスの姿を黙想の題材に

フランススコ・アシジ 谷口尚志

復活祭を迎えた全教会は復活された主ご自身との出会いに勇気づけられ、そのみことばに励まされながら歩みを続けています。復活節第2主日の福音朗読にて読まれたように、弟子たちにご自身を現わされた主は弟子たちの心の中心に立ち、優しく「平和があるように」(ヨハネ 20章 19節～参照)と声をかけ、恐れにとらわれて身動きができないでいる状況を打破するように促されました。大切なことは復活された主との出会いが、わたしたちを変えるということです。たとえ、恐れにとらわれていたとしても、また世の中に希望を見出せないとして嘆く時も、さらに、人も(自分も)神も信じられないと失望することがあったとしても、です。

わたしたちは、自分がそのような状態に陥る時こそ、復活節第2主日の福音箇所所述べられている内容を思い起こすことが必要でしょう。まず、トマスはなぜ頑なに復活された主を見るだけでなく、触れてみなければ信じないと断言したのでしょうか。そこには、自分だけが復活された主に出会えなかったという思いがあったのかも知れません。懸命に現状を打破するために動き回っていたからこそ、他の弟子たちの言葉に激高したのではないかと考えることができます。わたしは、彼がその時に他の弟子たちのようにユダヤ人を恐れて閉じこもっていたのではなく、むしろ、恐れに立ち向かおうとして外へ出かけていたのかも知れないと考えるようになりました。それならば、トマスは他の弟子たちよりも復活された主との確かな出会いを自分は果たすのだ、という思いからこの言葉が発せられたと考えることができるからです。彼こそ、誰よりも復活された主を信じようとしていた人だったのかも知れません。その分、せっかく大事にしていた確信を失ってしまう結果となったのだろう。懸命に現状を打破するために動き回っていたからこそ、閉じこもって動き回りもしなかった他の弟子たちに嫉妬し、怒りさえ覚えてしまったのだろう。そう読む

ふくれ饅頭	2面
つい最近のこと	3面
教会学校	4面
幼稚園から	5面
委員会等報告	6・7面
ウクライナの平和を願って	7面
お知らせ	8面

ことができるのです。

そして、この福音のメッセージはトマスだけに目を向けていては不十分であること思い起こすことができます。なぜなら、他の弟子たちも復活された主を“見た”から信じているからです。「わたしたちは主を見た」(20章25節を参照)。この言葉が何よりの根拠です。だからこそ、主はトマスを否定して文字どおりの説教をしたのではなく、すべての弟子たちを諭す言葉を伝えたのです。

主との初めての出会いによって召し出されたわたしたちは、苦労や忍耐から逃れられない人生を送る時こそ、今度は復活された主との出会いによって背中を押していただかなければなりません。見ているものをもっと知ろうとする姿につながるからです。心の中に来て「あなたがたに平和があるように」と励まして下さる主はわたしたちに希望を与え、未来を形づくるすべての人をいつも支えて下さるのです。



ふくれ饅頭づくりでは、宮本絹佳さん(小学5年生)が大活躍してくれました。小麦粉に水を注ぎ、これをこね、発酵、餡包み、蒸し、袋詰め、饅頭の配布まで全工程にたずさわってくれました。

小笠原信子さんを筆頭に、はづきさんまで年齢差70以上。多彩な人たち15人で、楽しいひと時が過ごせました。



## つい最近のこと

山口 一隆

とりためていたDVDを整理していたら、「野のユリ」が出てきた。

長く見たいと思っていたDVDで、整理の途中にもかかわらず早速、鑑賞会に切り替えた。

主人公は、建築士を目指す若い黒人青年。場所はアメリカ南部?のとある州。青年はより良い仕事を目指すために移動中である。途中ラジエターの水切れで車がエンスト。あたりに水を探すが、それもない。途方に暮れていると建物が見える。エンジンが冷め短い距離なら移動可能だ。

建物の周りで働いているのは修道女らしい女性ばかりが数人。その一人に事情を話すが、言葉が通じない。弱り果てていると、院長らしき女性が出てきた。事情を話すと井戸を指さした。青年は礼を言い、井戸に向かう。院長(らしい)はしめたとばかりニンマリ。

水の補給を終えた青年が礼を言い立ち去ろうとすると、院長が「ここで仕事をしないか」と誘ってきた。今はないが将来この地に教会を建てたいのだという。「いや、先を急ぐので」と断ったものの財布の中身がちと心もとない。数日ならここでアルバイトしてもいいかと、その申し出を受ける。

翌日早朝からたたき起こされ、わずかな食事で作業は始まる。夕方これもわずかな食事が終わると、修道女たちは英語の勉強を始める。東ドイツから逃げてきて、英語が話せないのだという。これから黒人青年が教師となって勉強会が始まる。

さらに翌朝院長の命令で、教会建設の資材集めのため、地元の建設会社を訪ねる。建設会社の社長に院長は「この人が教会を建ててくれます」と彼を紹介する。資材提供は体よく断られるが、アルバイトを進められる。幾度か院長には未払いのアルバイト代を請求するが、それは無視されていただけに渡りに船とアルバイトを始める。給料が入ると食料の買い出し。それまでわずかな食事に辟易していた青年は手一杯に買い物をした。院長は苦り切るが修道女は大はしゃぎ。そして英語の勉強会。

それからいくつかのエピソードが続くが割愛。青年は修道院を去り、幾月か過ぎ、やがて戻ってくる。

そして不在だった間にためた資金で聖堂建設のための資材の一部を買う。喜びの修道院院長。青年はただ一つだけ条件があるという。「教会聖堂は、自分一人の手で建てる」

かたくなまでの青年だったが、アルバイト先だった建設会社社長が資材の提供を申し出てきた。人でもだんだん集まる。資材もあり、人手もあるのに聖堂建設を人はただ見つめるばかり。

結論だけを言えば聖堂は立ち上がり、黒人青年は立ち去る。

この映画の面白さは見てもらえばわかると思う。いつか「こころの会」で上映の機会を貰えたらと思うがいかが。



## 教会学校のページ

3月25日(土) 御復活ミサの奉納ろうそくを教会学校メンバーで作りました。子ども達は宮本さん姉弟3人と樽角兄妹2人の計5名が参加、ろうそく作りを楽しみました。神父様が用意して下さった色つきのろうそくを溶かし、好みによって重ね合わせて行きます。色つきろうそくは色によって重さが違い、子ども達も意外だったようです。

青が最も重く、ピンクが一番軽い。黄色はその中間。これらを思い思いに色を重ねていきます。重さの違いで、色が微妙に混じり合ったり、遊離したりでいろいろなろうそくができあがりました。

その後、子ども達の先輩、上甲銀河さんと山田蓮さんがお話をしてくれました。蓮さんは看護師を目指すべく勉強に取り組まねばならないので、教会とは一時期疎遠になるかもしれないが、それを乗り越えれば必ず帰ってきます、と力強く語ってくださいました。銀河さんは教会に来ることについて、将来に何かが残って、それが何かに役だってくると話して下さいました。勿論子ども達にも分かる言葉で…。ありがとうございました。(記・樽角 司)





## 水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 5月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

### 〈水巻聖母幼稚園〉

4月7日に入園式・始園式があり、新学期が始まりました。

1つ大きな学年になり、新しいクラスにも少しずつ慣れ、新しいことに挑戦する姿が見られます。入園したお友達も、お部屋のお兄さんお姉さんと、笑顔で過ごしています。これからも沢山のことに挑戦し、成長していくことを楽しみにしています。

先日、園庭にこいのぼりを出しました。およいでいる姿に子どもたちは、喜んでいました。こいのぼりは、子どもたちが健やかに成長しますように、強くたくましくなりますようにという、願いが込められています。これからも子どもたちの成長を、見守っていきたいと思います。

水巻聖母幼稚園 TEL : 093 201 9559

e-mail : [ContactUs@mizumakiseibo.ed.jp](mailto:ContactUs@mizumakiseibo.ed.jp)



### 〈マリア子どもの家〉



2023年度がスタートしました。「ご進級、おめでとうございます！」

庭のプランターでは、チューリップやビオラ、ノースポールやアネモネの花が咲き誇っています。今年度も、あなたらしく健やかに成長できますように。そして、たくさんの色々な体験を、みんなでしましょうね。

11月2日に植えたスナップエンドウが、寒さに負けずグングン大きくなり、たくさんの実をつけました。



朝の畑活動の時間にちぎり、スジを取り、蒸しておやつで頂きました。優しい甘さの味がしました！

TEL : 050 5212 7759

HP : 水巻町マリア子どもの家  
水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家

園長 水口 由美

教職員 一同

## 委員会等報告 2023年4月分

## 4月度小教区委員会 4月16日

## 1. 行事予定

- ・5月14日(日) 小教区委員会
- ・5月21日(日) こころの会・教会学校  
18時～ベトナム語ミサ。
- ・5月28日(日) ミサ後～信徒総会

## 2. 議題

## (1) 各委員会報告

## ①広報委員会

- ・「からしだね」を増刷する。

## ②典礼委員会

- ・聖週間の典礼に関して協力していただき、感謝したい。

## ③営繕委員会

- ・信徒会館から司祭館にかけてのイヌバシリの破損状況が悪化しているため、どのような形で修繕するか検討中。
- ・信徒会館(給湯室)、司祭用車庫のガラスにひびが入っているために修繕したい。
- ・クリスマス用の電飾が破損したため、新しいものを購入したい。

## ④財務委員会

- ・信徒総会で配布する収支報告書の様式を変更する(理解しやすく、かつ見やすいものにしたい)。

## ⑤冠婚葬祭の会

- ・松尾恵子氏が5月11日(木)～23日(火)のあいだは不在となるため、代理として田中禮子氏が代表を務める。

(2) 5月28日(日)に行われる信徒総会について

- ・会計監査と配布資料の作成を行う。資料の

作成は前日の5月27日(土)14時より行う(それまでに監査を行う)。

(3) 9月23日(土)に行われる日帰り巡礼について

- ・訪問先を秋月、トラピスチヌ修道院(安心院)、ザビエル記念聖堂(山口)、萩の4つに絞ったが、全信徒へのアンケートを踏まえて最終的に決定することになる。そのためのアンケート用紙と回収箱を4月30日(日)～信徒総会前の5月21日(日)まで聖堂に設置する。

## (4) その他

- ・支出科目の『宣教広報費』に該当する経費に関して。水巻駅前に設置してある掲示板の広告料として年に二度、請求がきている(3,520円×2)。主任司祭として広告掲載は不要と判断して解約する旨を伝えたと、2024年度中までは解約できないとのこと。

- ・信徒の皆さんに淡路島のたまねぎを食べてもらいたいので、配布する際には献金を受け付け、それを改築献金に充てたいとの申し出があったので了承した(同じような件で相談を受けた場合には献金に充てることを条件に了承することとした)。

- ・信徒ではない方からパイプオルガンのコンサートのために練習が必要で、オルガンを使用させていただけないかとの問い合わせがあった(自宅には足踏み式のオルガンがないとのこと)。オルガンは教会の大切な財産であり、典礼儀式において演奏するためにあ

るので、今回のように信徒ではない方(しかも面識もない方)で、コンサートの練習のために使用したいという理由によっては使用

許可を出すべきではないことを全会一致で確認をした。ご本人にはその旨を伝え、丁寧に断りました。



皆さん、お気づきですか？

ミサの開始を告げる鐘楼の軒下に、十字架のキリスト像と、あざやかな黄色と青の百合の花の彫刻板が備えられていることを。

今年の復活祭は例年にも増して平和を願う祈りの声が全世界に響きます!□

吉田久枝さんのご主人(吉田茂さん)がひと月掛けてその祈りと願いを形にして顕わされた作品です。

この百合の花を見るたびに、ウクライナとロシアに和解の春が訪れ、緑豊かな大地に花々が咲き乱れる日が一日も早い事を祈ります。

なおこの彫刻板は、戦争が終わり、ウクライナの地に再び平和が訪れる時まで掲げられます。

(広報委員)



# 5月のおしらせ

## ★信徒総会について★

日 時：5月28日(日) ミサ後  
信徒の皆様の参加をお願いします。

人・ひと

【転入】ようこそ! 水巻へ

◇板垣 伸さん  
三永子さん  
咲来さん  
大誠さん  
杏さん

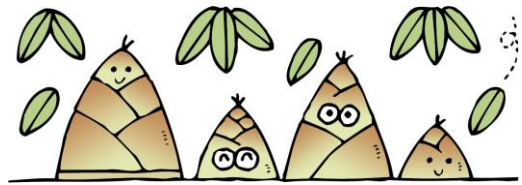
## ★特別献金★

カテドラル特別献金 25,710円  
四旬節愛の献金 83,311円  
聖地のための献金 9,250円  
ご協力、ありがとうございました。

小倉教会から折尾地区へ

## ★こころの会「ベトナム紹介」★

5月は4週目が信徒総会のため、第3週の  
5月21日に行います。



## 今月の聖人 25日 聖マグダレナ・ソフィア・バラ修道女 1779年-1865年

フランスのブルゴーニュのぶどう栽培の家に生まれました。  
当時フランスは革命の中にあり、自由・平等の気運が高まっていたので、神学生であった兄は、ソフィアの宗教教育に力を注ぎました。兄は司祭になると彼女をパリへ呼び、神学と哲学の勉強をさせました。その頃、フランスの司祭のグループが女子教育のために修道女会を設立したいと望んでおり、その指導者であったヴァラン神父がソフィアと3人の仲間を受け入れ、1825年に「聖心会」が誕生しました。ソフィアは、亡くなるまでの60年間、会の支えとなって活躍しました。



彼女は、女子教育を通してイエスのみ心の愛を世に広めることに生涯をささげました。聖心会は、欧州各国、アメリカ、東洋にまで発展し、日本には1907年に渡来。札幌、東京、裾野(静岡県)、名古屋、宝塚などで聖心女子学院、聖心女子大学を運営したり地域のために働いたり、祈りと教育と宣教の生活に励んでいます。

「不完全な靈魂にとっては危険で困難な仕事でも、神を愛する人びとにとっては大きな収穫をもたらすものである」 (聖マグダレナ・ソフィア)